



「担任の先生が卒業の時にはなむけに詩を吟じてくれた」と感謝を忘れない竹澤

青春スクロール

母校群像記

部活・バンド：振り返ると音楽があった

前回、栃木高校（以下、栃高）の美術部に連なるOBを紹介したが、音楽に青春をかけた同窓生も少なくない。日本銀行業務局参事役の竹澤秀樹（51、82年卒）は音楽部でバイオリンを弾いていた。秋の演奏会でシューマンやシベリウスを演奏したが「身の程知らずの高校生だった」と振り返る。文芸部に顔を出したり、開会中の栃木国体を授業を抜け出して見に行ったりして青春時代を満喫。31才耐久レースはきつかった。足にまめをつくりながら学校に戻ってくる頃にはすでに帰宅する生徒もいた。今は銀行



栃木高校 ④

世界的な指揮者「ジョン・ティン」氏（右）と、ティン氏の指揮する歌劇カルメン公演で、石毛は副指揮を務めた。石毛氏提供



業務を担当する部局のナンバースとして日銀を支える。音楽部で一人光を放っていたと竹澤が言うのが同期で指揮者の石毛保彦（50、82年卒）。3歳からバイオリンを弾いていたのでレベルが違っていた。小学校の時に習ったピアノの先生が栃高音楽部の顧問だった縁で入学。1年生の時から先輩にも弦楽器の指導をしていた。



高校からの帰宅途中、小山市の喫茶店に仲間と寄り道していた中島

三鷹の森ジブリ美術館館長

理系クラスで医者を目指し、東大付属病院で内科医として12年勤めた。「指揮者になりたい」との思いも捨てきれず、医者を辞めて桐朋学園大学音楽学部で学び、夢を実現した。

の中島清文（51、82年卒）はドラム漬けの高校生生活だった。家にあったドラムを中学校からたたいていた。帰宅するとすぐドラム。「文化祭のシーズンになると、外のスタジオを借りて有志とバンドを組んで練習した」。3年時に音楽が勉強が選択を迫られ、勉強の道へ。東大から住友銀行三井住友銀行に入行。当時から付き合いのあったスタジオジブリの鈴木敏夫フロデューサーから声がかかり、

2005年美術館館長に。高校時代はソフトテニス部で音楽とは無縁だったが、日本の音楽界を引っ張っていく人材を育てる仕事に就いたのが名古屋音楽大学長の高橋肇（50、82年卒）。「部活ばかりやっていた。雨が降るとすぐにぬかるみになるひどいコートだった。引退して3年になっても勝手に顔を出していた」というほどスポーツが大好きだった。

キャンパス改革を進める高橋、名古屋音楽大には邦楽コースからミュージカルコース、音楽療法コースなど多彩なプログラムが用意されている



恒例の水泳大会も思い出深い。学年対抗戦のメドレーリレーで高橋が出場した1年生が優勝。担任の教師が「快挙だ」と大喜びしている姿が忘れられない。名古屋音楽大で学び、同大学や名古屋音楽大で教壇に立った。法務・経営の手腕を買われ10年に名古屋

音大の学長に就任。持ち前の体育会系で魅力ある学園づくりに走り回る。同大学には金山正一（62、70年卒）がピアノ教師として在籍。栃高時代はオーケストラクラブに所属、武蔵野音大に進んだ。（敬称略）

三鷹の森ジブリ美術館（東京都三鷹市）は日時指定の予約制。チケットは全国のローソンで購入できる。詳しくは同館のホームページ（<http://www.ghibli-museum.jp/>）で。石毛の演奏会の予定はホームページ（<http://ishige.music.coocan.jp/homepage/Welcome.html>）で。

贈りものに
お土産に

葉詩



宇都宮

ラギヤ

☎028(634)6810